

重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育の動向

— 指導内容と実践内容に着目して —

森山 貴史*, 佐々木 全**, 名古屋 恒彦***

(2020年2月21日受理)

Takashi MORIYAMA, Zen SASAKI, Tsunehiko NAGOYA

Trends in Career Education for Children with Severe and Multiple Disabilities

: Focusing on the Contents and Practice

要 旨

近年、特別支援学校におけるキャリア教育が重要視されるが、その課題として、①学校の教育活動全体で行うという意図が十分に理解されず、指導場面が曖昧にされていること、②進路に関連する内容が存在しない小学部では、体系的に行われていないこと、③狭義の意味での「進路指導」と混同されていること、④将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されている場合があることが指摘されている。これらの課題は、重度・重複障害のある児童生徒ではより顕在化する。現在、特別支援学校では児童生徒の障害の重度・重複化が進んでおり、重度・重複障害のある児童生徒に対するキャリア教育について実践的な展望が求められる。

そこで本稿では、重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育はどのように捉えられ、実践されてきたのか、その動向について、指導内容と実践内容から概観し、今後の課題を整理した。

Key Words: 重度・重複障害 キャリア教育

I はじめに

2009年改訂の特別支援学校学習指導要領及びその解説に「キャリア教育の推進」が明示されてから10年が経った。2018年改訂の特別支援学校学習指導要領（小学部・中学部）では、キャリア教育について以下のように述べられており、改めて重要視されていることがうかがえる。

児童又は生徒が、学ぶことと自己の将来と

のつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要しつつ各教科等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、中学部においては、生徒が自らの生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

*青森県総合学校教育センター、**岩手大学大学院教育学研究科、***植草学園大学発達教育学部

本改訂では、要となる特別活動の学級活動の内容に「(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現」を設けており、教育活動の中にキャリア教育をより明確に位置づけ、具体的な取組が推進されることが望まれている。

その背景として、同解説の中では、キャリア教育の課題について主に次の4点を挙げている。

- ①学校の教育活動全体で行うという意図が十分に理解されず、指導場面が曖昧にされている。
- ②進路に関連する内容が存在しない小学部では、体系的に行われていない。
- ③狭義の意味での「進路指導」と混同されている。
- ④将来の夢を描くことばかりに力点が置かれ、「働くこと」の現実や必要な資質・能力の育成につなげていく指導が軽視されている場合がある。

上記課題は、知的障害が重度であったり、複数の障害を併せ有していたりする場合に、より顕著に生じると考えられる。しかしながら、いわゆる重度・重複障害^{注)}のある児童生徒へのキャリア教育について、同解説では具体的に言及されておらず、それ以外に文部科学省から示されている資料もない状況である。現在、特別支援学校では児童生徒の障害の重度・重複化が進んでおり、今後、上記課題の解決がより難しくなっていくことが推察される。

そこで、本稿では、課題解決の布石として、重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育はどのように捉えられ、実践されてきたのか、その動向について、指導内容と実践内容から概観し、今後の課題を整理することを目的とした。

II 指導内容

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2010)は、2008~2009年度の2年間で、知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究を行い、その成果として「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」を作成し、全国に広

く情報発信した。「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」とは、知的障害のある児童生徒のキャリア発達の段階に応じて、「育てたい力」を整理した指導内容表であり、これを表1に示した。この「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」は、知的障害特別支援学校のみならず、他障害種の特別支援学校におけるキャリア教育の参考とされ、多くの実践されてきた。その一例として、石川(2014)は、知的障害特別支援学校において、「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」を参考に、小学部、中学部、高等部における「キャリア発達に関する願う姿」(「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」の自版というべき内容)を作成し、これを授業の目標や評価に反映する実践を報告している。この実践については、後に坪谷・清水・名古屋他(2018)が各学部主事へのインタビュー調査を実施し、日々の授業においてキャリア教育が踏まえられていることを明らかにした。さらに、上川・小山・名古屋他(2019)は、日々の授業における児童生徒の姿と「キャリア発達に関する願う姿」を対照させ、日々の授業の中でキャリア教育の内容が取り扱われていることを指摘した。このように、「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」は、キャリア教育の指導内容として普及するとともに実践の足掛かりとして活用されている。

しかしながら、「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」は、あくまでも知的障害のある児童生徒を想定した指導内容表であるため、重度・重複障害のある児童生徒にそのまま適応するのは難しい。

また、名古屋(2013)は、「『キャリアプランニング・マトリックス』が比較的障害の軽いと言われる子どもの活動をイメージさせる表現や内容を多く含んでいること」と述べ、このことが、障害が重いと言われる子どものキャリア教育を困難とする考えの背景になっていると指摘している。

一方で、国立特別支援教育総合研究所(2011)による「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」策定の過程では、個人差に応じた実践研究

表2 岡山県特別支援教育キャリア教育の発達段階表(小学部)

				小学部	
暦年齢による役割				生活・進路の探索・選択に関わる基盤形成	
				基礎	
				集団参加の基礎, 活動の開始	
				学校・家庭生活の中で役割を果たす	
基礎的・汎用的能力		要素		下学年	上学年
人間関係形成能力・ 社会形成能力	多様な他者の考えや立場を理解し, 相手の意見を聞いて自分の意見を正確に伝えることができると共に, 自分のおかれている状況を受け止め, 役割を果たしつつ他者と協力・共同して社会に参画し今後の社会を積極的に形成することができる力	コミュニケーション 社会性	コミュニケーション 人間関係の形成	教師からの関わりを受け止める。	教師の関わりに表情や声, 身体の動きで応じる。
				快・不快を声や表情, 身体の動きで表す。	快・不快を声や表情, 身体の動きで伝える。
				いつも一緒に活動する小集団での活動を受け止める。	いつも一緒に活動する小集団の中で, 友達を意識する。
					教師の適切な援助や準備によって, 様々な経験を積む。
課題対応力	自分が「できること」「意義を感じたこと」「したいこと」について社会との相互関係を保ちつつ, 今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に, 自らの思考や感情を律し, かつ, 今後の成長のためにすすんで学ぼうとする力	自己の役割 主体性 自己の障害受容	健康の保持 人間関係の形成	おおまかな覚醒のリズムをつくる。	覚醒のリズムが安定する。
				痛みや不快を感じる。	痛みや不快の感覚を表現する。
				教師からの関わりに興味関心をもつ。	教師の反応に興味関心をもつ。
				様々な素材に触れたり, 活動を経験したりすることで, 興味関心の幅を広げる。	興味関心, 振る舞い等が明確になり, 本人なりの個性としてそれらを発揮する。
自己理解・ 自己管理能力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し, 適切な計画を立ててその課題を処理し, 解決することができる力	情報の収集・活用 計画・立案・実行	環境の把握 心理的安定	教師の声や顔が分かり, 気持ちや向きを向ける。	なじみのある人や好きな人, 物が分かる。
				すぐ近くの人や物を注視し, 手を伸ばして触ろうとしたりする。	2つの物について違いを感じ取る。
				ひとつつながりの物事の終わりを感知取る。	ひとつつながりの物事の終わりを受け入れる。
					学校生活を楽しみにする。
キャリアプランニング 能力	「働くこと」の意義を理解し, 自分が果たすべき様々な立場や役割との関係をふまえて「働くこと」を位置づけし, 多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら, 自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力	学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 将来設計	環境の把握 心理的安定	いろいろな遊びを体験する。	好きなことを見付ける。
				教師に身体に触れられることを受け止める。	教師からの介助を受け止め, 一緒に活動に取り組もうとする。
				教師と一緒に付近の公園や施設を利用する。	教師と一緒に電車やバスを利用する。
				安定した健康状態を, 教師とともに獲得・確立していく。	安定した健康状態や学習した事柄を基盤にして, 活動の幅を広げていく。

教育課程」に対応した発達段階表として,小学部, 中学部・高等部それぞれを対象としたものを表2と表3に示した。表中における「要素」という項目は, 基礎的・汎用的能力をさらに具体的な要素に捉え直し, 上位項目(表中の左側)は準ずる教育の教育課程のもので, 下位項目(表中の右側)

は知的障害のある児童生徒の特性をさらに考慮したものを示している。

2. 福岡県立直方特別支援学校「キャリア教育段階表」

福岡県立直方特別支援学校の「キャリア教育段階表」

表3 岡山県特別支援教育キャリア教育の発達段階表（中学部・高等部）

				中学部	高等部
<p>暦年齢による役割</p>				現実的探索と暫定的選択	現実的探索・試行と社会的移行準備
				応用	実践
				活動の拡大・充実	活動の実際化・実践
				社会の中の役割を知る	役割を選択する
基礎的・汎用的能力		要素		中学部	高等部
<p>人間関係形成能力・社会形成能力</p>	<p>多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聞いて自分の意見を正確に伝えることができると共に、自分のおかれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・共同して社会に参画し今後の社会を積極的に形成することができる力</p>	<p>コミュニケーション 社会性</p>	<p>コミュニケーション 人間関係の形成</p>	担任以外の関わりを表情や声、身体の動きで応じる。	なじみのない支援者の関わりでも受け止める。
				自分の気持ちを伝えようとする。	自分の気持ちを、相手に自分なりの方法で伝える。
				教師と一緒に、新しい集団での活動を受け入れる。	なじみのない集団の活動に落ち着いて取り組む。
				大人としての扱いを受けながら様々な活動に参加することで、周囲の人と年齢にふさわしいやり取りをする。	多様な人と触れ合う経験を重ね、自分らしい表現や良いところ（長所）を知ってもらい、やり取りをする。
<p>課題対応力</p>	<p>自分が「できること」「意義を感じたこと」「したいこと」について社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のためにすすんで学ぼうとする力</p>	<p>自己の役割 主体性 自己の障害受容</p>	<p>健康の保持 人間関係の形成</p>	生活のリズム（睡眠・食事等）が安定する。	非日常的な出来事（生活時間帯の変化等）があっても健康状態を保つ。
				痛みや不快の感覚を伝える。	痛みや不快を取り除くことを要求する。
				教師から賞賛されたことが分かる。	教師の自分への評価に興味関心をもつ。
				様々な支援機器を使うことにより、生活の質を上げる。	価値ある活動（奉仕、労働等）に、支援を受けて自分なりの参加の仕方をする事で、価値を共有する。
<p>自己理解・自己管理能力</p>	<p>仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力</p>	<p>情報の収集・活用 計画・立案・実行</p>	<p>環境の把握 心理的安定</p>	なじみのある人や物とそうでないものが分かる。	周囲のいろいろな人を声や姿などで区別する。
				選択肢の中から自分の好きな物、したいことを選ぶ。	場所や支援者が変わっても、自分の要求を伝える方法をもつ。
				繰り返される物事について、「～したら、～になる」という短い見通しをもつ。	日常的に繰り返される物事について、見通しをもつ。
				学習経験を通して、様々なことに慣れ、安定した学習ができる。	健康面も含め、しっかりとした個性を発揮することで、様々な可能性を発見してもらい、多様な進路の可能性を、教師とともに見出す。
<p>キャリアプランニング能力</p>	<p>「働くこと」の意義を理解し、自分が果たすべき様々な立場や役割との関係をふまえて「働くこと」を位置づけし、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取舍選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力</p>	<p>学ぶこと・働くことの意義や役割の理解 将来設計</p>	<p>環境の把握 心理的安定</p>	好きなことや活動を増やす。	・楽しめること（好きな人との関わり・活動）を期待して待つ。 ・自分の楽しめることで余暇などの時間を過ごす。
				介助を受けることを受け入れ、一緒に活動に取り組もうとする。	協力的な動作をしようとする。
				教師と一緒に安定した気持ちで1泊程度の宿泊をする。	なじみのない支援者の支援を受けながら、安定した気持ちで1、2泊程度の宿泊をする。
				大人への移行を意識した学習内容や方法により、活動の新たな意味を見出す。	支援を受けながら、学校や家庭以外の場で過ごすことを通して、自分のことを知ってもらい、支援者や活動の場を増やす。

表4 福岡県立直方特別支援学校「キャリア教育段階表」

職業的（進路）発達にかかわる 基礎的・汎用的能力		職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される 具体的な能力・態度		
		小学部	中学部	高等部
人間関係形成能力・	多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力	<ul style="list-style-type: none"> 身近な人からの働き掛けを受け入れる。（働き掛けの受容） 身近な人へ快不快や意思を表出する。（意思の表出） 身近な人に向けて働き掛ける。（他者への働き掛け） 身近な人と意思の疎通を図りながら一緒に活動する。（意思の疎通） 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲の人からの働き掛けを受け入れる。（働き掛けの受容） 周囲の人へ快不快や意思を表出する。（意思の表出） 周囲の人に向けて働き掛ける。（他者への働き掛け） 周囲の人と意思の疎通を図りながら一緒に活動する。（意思の疎通） 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな人からの働き掛けを受け入れる。（働き掛けの受容） いろいろな人へ快不快や意思を表出する。（意思の表出） いろいろな人に向けて働き掛ける。（他者への働き掛け） いろいろな人と意思の疎通を図りながら一緒に活動する。（意思の疎通）
	〔具体的な要素〕 他者の個性を理解する力、他者に働きかける力、コミュニケーション・スキル、チームワーク、リーダーシップ等			
自己理解・自己管理能力	自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力	<ul style="list-style-type: none"> 健康な状態を維持する。（健康状態） 覚醒水準を維持する。（覚醒水準） 生活リズムを整える。（生活リズム） 身近な人や物が分かる。（状況の理解） 身近な人と一緒に活動に取り組む。（忍耐力） 	<ul style="list-style-type: none"> 健康な状態を維持する。（健康状態） 覚醒水準を維持する。（覚醒水準） 生活リズムを整える。（生活リズム） 周囲の人や物が分かる。（周囲の理解） 周囲の人と一緒に最後まで活動に取り組む。（忍耐力） 	<ul style="list-style-type: none"> 健康な状態を維持する。（健康状態） 覚醒水準を維持する。（覚醒水準） 生活リズムを整える。（生活リズム） 周囲の状況が分かる。（状況の理解） いろいろな人と一緒に最後まで粘り強く活動に取り組む。（忍耐力）
	〔具体的な要素〕 自己の役割の理解、前向きに考える力、自己の動機付け、忍耐力、ストレスマネジメント、主体的行動等			
課題対応能力	仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力	<ul style="list-style-type: none"> 一つの課題に注意を向ける。（課題の理解） 一つの課題に集中して取り組む。（課題の遂行） 一つの課題を自分の力で解決する。（課題の解決） 身近な人と一緒に身体力を入れたり、抜いたりして、姿勢を保持したり、身体を動かしたりする。（姿勢の保持、身体の動き） 	<ul style="list-style-type: none"> いくつかの課題に注意を向ける。（課題の理解） いくつかの課題に集中して取り組む。（課題の遂行） いくつかの課題を自分の力で解決する。（課題の解決） 周囲の人と一緒に身体力を入れたり、抜いたりして、姿勢を保持したり、身体を動かしたりする。（姿勢の保持、身体の動き） 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな課題に注意を向ける。（課題の理解） いろいろな課題に集中して取り組む。（課題の遂行） いろいろな課題を自分の力で解決する。（課題の解決） いろいろな人と一緒に身体力を入れたり、抜いたりして、姿勢を保持したり、身体を動かしたりする。（姿勢の保持、身体の動き）
	〔具体的な要素〕 情報の理解・選択・処理等、本質の理解、原因の追究、課題発見、計画立案、実行力、評価・改善等			
キャリアプランニング能力	「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力	<ul style="list-style-type: none"> 好きなことや好きなものがたくさんある。（興味、関心） できることや得意なことがたくさんある。（自信、意欲） やりたいことや活動を選択し、決定する。（選択、決定） 	<ul style="list-style-type: none"> 好きなことや好きなものに取り組む。（興味、関心） できることや得意なことに取り組む。（自信、意欲） やりたいことや活動を選択・決定し、取り組む。（選択、決定） 	<ul style="list-style-type: none"> 好きなことや好きなものに取り組んで理解を深め、興味・関心を高める。（興味、関心） できることや得意なことに取り組んで理解を深め、興味・関心を高める。（自信、意欲） やりたいことや活動を選択・決定し、改善を図り（工夫し）ながら取り組む。（選択、決定）
	〔具体的な要素〕 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解、多様性の理解、将来設計、選択、行動と改善等			

※自立活動を主とする教育課程と推察される類型の部分のみ抽出

表5 基礎的・汎用的能力に基づくキャリア教育の要素（自立活動を主とする教育課程）

基礎的・汎用的能力	岡山県特別支援学校長会（2013）	福岡県立直方特別支援学校（2017）
人間関係形成能力・社会形成能力	・コミュニケーション ・人間関係の形成	・働き掛けの受容 ・意思の表出 ・他者への働き掛け ・意思の疎通
自己理解・自己管理能力	・環境の把握 ・心理的安定	・健康状態 ・覚醒水準 ・生活リズム ・状況の理解 ・忍耐力
課題対応能力	・健康の保持 ・人間関係の形成	・課題の理解 ・課題の遂行 ・課題の解決 ・姿勢の保持, 身体の動き
キャリアプランニング能力	・環境の把握 ・心理的安定	・興味, 関心 ・自信, 意欲 ・選択, 決定

階表」は、「岡山県特別支援教育キャリア教育の発達段階表（試案）」と同様に、「基礎的・汎用的能力」を踏まえ、職業的（進路）発達を促すために育成することが期待される具体的な能力・態度を整理した資料である。自立活動を主とする教育課程と推察される類型の部分だけを抽出し、表4に示した。

3. 「基礎的・汎用的能力」に基づくキャリア教育の要素

調査結果から、自立活動を主とする教育課程で学ぶ児童生徒を対象とした、「基礎的・汎用的能力」に基づくキャリア教育の要素について、表5のように整理された。「基礎的・汎用的能力」を重度・重複障害のある児童生徒の実態に合わせて具体化し、実践を通して指導内容を整理する作業は大きな労力を要すると推察され、これらの先行研究は大変参考になる。

III 実践の動向

次に、重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育に関する実践報告を概観する。「基礎的・汎用的能力」の内、「人間関係形成能力・社会形

成能力」に関係する力の育成を目指した実践が複数報告されている。例えば、佐々木（2014）は、愛知県立名古屋特別支援学校が独自に作成した「キャリア形成のための発達段階別指導内容表」を基に、小学部段階として、人間関係形成能力の基盤となる「かかわる」力の育成に向けた実践を報告した。様々な活動の中に教師や他の児童とかかわる場面を意図的に設定したり、周囲の状況を把握しやすく活動にも参加しやすい姿勢を工夫したりすることで、対象児童が周囲の様子を意識し、自分から働きかける場面が見られるようになった事例である。

相坂（2016）は、対象生徒の「たくさんの人と一緒に会話をし、かかわりあいながら楽しく過ごしたい」という願いを踏まえ、「『YES / NO』の意思を、舌の動きと発声で伝える」ことを目指した実践を報告した。好きな飲み物と嫌いな飲み物を提示して表出を促すなどスモールステップで丁寧な指導を繰り返したことで、具体物がなくても言葉のみの提示で、4つの中から好きなものを一つ選ぶことができるようになった。さらには、飲み物以外にも、音楽の授業における楽器の選択や休憩時間の遊びの選択など、様々な場面で自分の意思で選択し、相手に明確に伝えることができる

ようになった事例である。

乗金 (2016) は、対象生徒の課題を「自分の思いや要求を伝えることに積極的になり、様々な活動に自ら取り組もうとすることができる」ことと捉え、「タブレット PC の VOCA アプリ『ドロップトーク』を活用して、自分の気持ちや要求を伝える」こと等为目标とした実践を報告した。その成果として、帰りの会で VOCA アプリを活用した発表を頑張る姿が見られるようになり、その意欲が他の学習場面でも、積極的に周りの人に自分の気持ちや要求を伝えようとする姿につながったことを挙げている。なお、本実践では、前述の岡山県特別支援学校長会 (2013) による「岡山県特別支援教育キャリア教育の発達段階表 (試案)」を活用して、対象生徒の課題を整理している。

また、「人間関係形成能力・社会形成能力」以外の力に着目した実践も報告されている。例えば、米田 (2016) は、「朝の会」において、児童が活動内容を理解しやすいように補助具を工夫したり、自分や友達の役割に気付けるように係活動を設定したりするなど授業改善を行うことで、どの児童も自分なりに係の仕事が分かり、自信をもって活動する様子が見られるようになったことを報告している。これは、岡山県特別支援学校長会 (2013) や福岡県立直方特別支援学校 (2017) によるキャリア教育の発達段階別指導内容表を参照すると、「キャリアプランニング能力」に関係する力の育成を目指した実践であると言える。

これらの実践研究の共通点として、いずれも肢体不自由特別支援学校による報告であることや、各校が「基礎的・汎用的能力」に基づくキャリア教育の要素や指導内容を独自に整理し、発達段階に応じて育てたい力を明確にしていることが挙げられる。このようなキャリア教育の指標に成り得る発達段階別の指導内容について、全国の特別支援学校で情報交換して、より精度の高いものに発展させていくことが期待されるが、現状では一部の肢体不自由特別支援学校間での情報共有に留まっている可能性がある。

IV 考察

本稿で試みたインターネットによる調査では、重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育に関する資料が二つしか得られなかった。その要因の一つとして、全国の教育委員会(教育センター含む)において特別支援学校でのキャリア教育に関する情報発信が積極的に行われていない可能性が指摘できる。小学校や中学校、高等学校におけるキャリア教育については、実践研究の成果物や理解啓発のパンフレット等が作成され、教育委員会(教育センター含む)のホームページに掲載されている地域が多かったが、特別支援学校については顕著に少なかった。

もう一つの要因として、各特別支援学校のホームページで実践研究に関する情報発信が十分に行われていない可能性が指摘できる。前述の通り、全国の肢体不自由特別支援学校で、重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育の実践研究は行われているため、今後、各校がホームページ等を有効活用して積極的に情報発信することが期待される。加えて、重度・重複障害のある児童生徒は、肢体不自由特別支援学校以外の特別支援学校にも在籍しているため、障害種を越えてキャリア教育の在り方を議論していくことも必要であろう。

このように、重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育に関する実践研究は、報告数が少ないだけでなく、児童生徒の実態が多様であるが故に指導のアプローチも三者三様であり、指導のポイントとして共通事項を見出すことは難しい。越智・越智・榎木他 (2018) は、キャリア教育に関する肢体不自由特別支援学校教員の意識調査の結果から、自立活動を主とする教育課程を担当している教員が、重度・重複障害のある児童生徒の「将来につながる授業」のイメージを他の教育課程の担当教員に比してもっていないことから、「キャリア形成に向けた指標」の必要性を指摘している。この指標に当たる資料については、吉田・矢下・菅野 (2013) が、東京都立北特別支援学校が独自に作成した「キャリア教育の流れ表」とし

て公表している。これを表6に示した。同校では、この表に示されている11項目の「つきたい力」(①主体的に関わる, ②伝える, ③関わりを広げる, ④支援を受ける, ⑤憧れる, ⑥周りを楽にする, ⑦期待する, ⑧自分でやる, ⑨楽しむ, ⑩選ぶ, ⑪解決する)を、実際の授業の中でどのようにして児童生徒に指導していくのかということをもとめたキャリア教育の「指導内容表」を作成し、ファイルサーバーを使って各自のパソコンから自由に指導案を閲覧できるようなシステムを構築している。また、この表の特徴は、「就学前→学校」, 「小学部低学年→小学部高学年」, 「小学部→中学部」, 「中学部→高等部」, 「学校→社会」という各段階での移行支援が重視されている点である。

下山(2013)は、重度・重複障害のある児童生徒は自ら必要とする支援を伝えることが難しく、支援の仕方にも配慮すべき点が多いことから、キャリア教育における移行支援の重要性を指摘している。移行支援は、特別支援学校卒業時のことだけでなく、発達段階に応じて「獲得した力を、いろいろな人、いろいろな集団、いろいろな場で発揮できるように指導することが大切」とされている。移行支援に焦点化した実践研究は、本稿で参照した文献の範囲では見られなかった。今後、重度・重複障害のある児童生徒のライフステージに応じた移行支援の充実を志向したキャリア教育の実践研究を蓄積していくことが重要な課題の一つであると考えられる。

また、菊地(2016)は、重度・重複障害のある児童生徒へのキャリア教育においては、本人の「思い」や「願い」を大切にすることの重要性を指摘している渡部(2012)は、重度・重複障害のある児童生徒を対象とした「本人の願いや夢や希望をとり入れた実践モデル(案)」を6つ提案しており、その概要を表7に示した。個別の教育支援計画には、児童生徒本人から聞き取ることが難しいとしても、保護者や教員が関わる中で感じ取っている「本人の願い」を記載していることが多いと思われるが、それをどのように実践に反映させるかは担当教員に任されているため、その実態は明らか

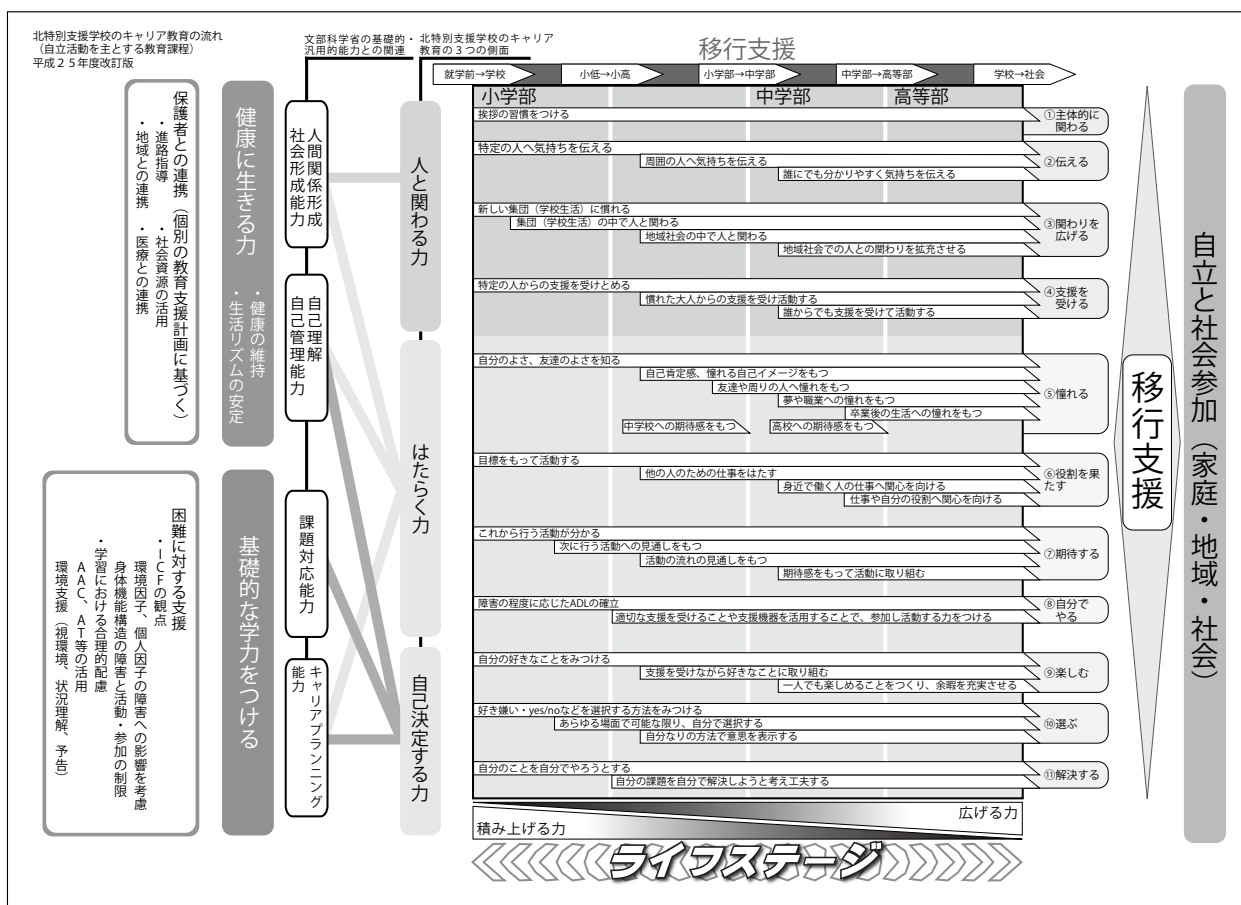
にされていない。渡部(2012)による実践モデルは、試行的な取組ではあるものの、キャリア教育の視点と本人の願い、指導のねらい、指導内容のつながりを把握でき、かつ実際の授業がイメージしやすいため、多くの学校で参考になる。

名古屋(2013)は、本来、学習指導要領に基づく教育内容群から構成される教育課程を補完する機能を有する「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」が、知的障害教育の実践の場では、教育課程の中心とされている事態を指摘し、それを「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」への誤解であるとしている。そのような誤解の背景として、「知的障害教育課程自体がそもそも生活の自立をめざした教育内容群で教科等を構成していること」をあげている。本来、生活の自立を重視した知的障害教育課程の伝統の下では、やはり生活に必要な内容で構成される「キャリアプランニング・マトリックス」が、教育課程そのものと互換可能であると見る誤解も生まれやすいと考えられる。

知的障害教育課程は、「キャリアプランニング・マトリックス(試案)」等のキャリア教育の内容よりも幅広くかつ精練された内容を有している。そうであれば、知的障害教育においては、「キャリアプランニング・マトリックス」やそれに基づく内容表に重点を置くよりも、学習指導要領に基づく本来の教育内容を適確に把握し教育課程を編成した上で、それらを子どもにどのように指導していくかという方法上の課題も重要であり、その方面での実践研究も展開されている。この一例として、岩手大学教育学部附属特別支援学校(2013)による報告がある。

また、重度・重複障害のある児童生徒への教育においても、そのような方法論の質的検討を行うことまでをキャリア教育とすれば、実践の実績範囲は広がるとも考えられる。また、名古屋(2013)は、障害が重いとされる子どもに対しては、キャリア教育の本質である、子どもの主体的な生活のありようを、その子なりの主体性を明らかにして検討する必要性を指摘しており、このような視点

表6 東京都立北特別支援学校「キャリア教育の流れ表」



での実践動向の検討も今後は求められよう。

注)「重度・重複障害」とは、1975年3月に出された「重度・重複障害児に対する学校教育の在り方について(報告)」(特殊教育の改善に関する調査研究会 会長 辻村泰男)を踏まえると、学校教育法施行令第22条の3に規定する障害を2つ以上併せ有し、発達の側面及び行動的側面における困難が大きく、日常生活において常時介護を必要とする程度の者であると捉えることができる。なお、ここでいう「重度」という概念は医学的に定義されたものではなく、教育的支援上の困難さを表している。

文献

相坂潤 (2016) 児童生徒のキャリア発達を支援するための授業づくり～人とかかわるための力の向上を目指して～. キャリア発達支援研究, 3, 80-86.

岩手大学教育学部附属特別支援学校 (2013) : 児童生徒のキャリア発達を支える授業一目標設定と自己評価の取り組み一. 研究紀要No.22, 105-109.

石川則子 (2014) 附属特別支援学校におけるキャリア教育の実践研究の取組. 岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 1, 17-21.

独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 (2010) 専門研究B「知的障害教育におけるキャリア教育の在り方に関する研究-『キャリア発達段階・内容表(試案)』に基づく実践モデル

表7 本人の願いや夢や希望をとり入れた実践モデル(案)(渡部, 2012)

	ねらい	実践例	キャリア教育との関連
タイプA 【本人の願い(好きなこと)そのものをする】	好きなことに取り組むことで、健康状態の保持増進や情緒を安定させ、自己肯定感の向上を図る。	・好きな音楽をスイッチの工夫をし、自分で操作しながら聴く。 ・好きな絵本を読んでもらう。 ・水遊びをする。 ・トランポリンをする。	児童生徒との信頼関係づくりや情緒の安定を図り、自己理解・他者理解を図ることに効果がある。
タイプB 【本人の願い(好きなこと)を授業展開の中に加えて、意欲的に授業に取り組めるようにする】	好きなことで学習目的の達成や集中力を高める。	・音楽の好きな生徒に目覚めて活動できるように注意の向く音楽を流しながら活動する。	興味があることを学習に活かすことは基本的なことではあるが、テーマ性をもたせることによってより学習意欲が高まっていく。また、余暇の面の充実につながり、生きがいややりがいに発展させることも可能である。
タイプC 【本人の願い(好きなこと)を最後にすることをめざして、一定時間活動に取り組めるようにする】	活動の見通しや自己コントロールの力を付ける。	・朝の会の最後にお楽しみコーナーを設け、覚醒した状態に会に参加できるようにする。 ・課題が終わったら、好きな散歩に出かける。	児童生徒との駆け引きだけに使うのではなく、責任をもって課題に取り組む大切さや、先を見通す力をつけることが、将来設計能力(目標設定)を身につけることにつながる。
タイプD 【本人の願い(好きなこと)をきっかけにして、活動の広がりをねらう】	好きなことを発達課題の達成に向けての取組のきっかけとする。	・トランポリンが好きな児童にもう一回して欲しいと要求が出せるように、途中で揺らすのを止めて、要求が出るのを待つ。	学習目標は他にあるが、本人の興味関心を動機付けに活用する。人の喜ぶことや役に立つ活動を組み合わせることによって、自己肯定感が高まり、人間関係形成能力の意思表示の力や、情報活用能力の「はたらくよるこび」を身につけることが期待できる。
タイプE 【新たな出会いや今まで経験を整理して、憧れの気持ちをもったり、本人が好きなことと自覚したりする】	新たな憧れの対象を見つけたり、自分の好きなことを自覚したりする。	・校外学習等で新たな場所で新しい体験活動を行い、その様子について観察する。	機会を見つけて信頼できる人と新たな活動を行い、その様子を見るのが新たな興味を広げるきっかけとなる。はじめからできない、嫌がるかもしれないと決めつけるのではなく挑戦していきたい。そのことが情報活用能力の様々な情報への関心を育てることになる。また、活動の後は、体験のやりっ放しではなく、振り返りを行うことで、本人がその活動の価値づけができるようにすることを忘れてはいけない。
タイプF 【本人の願い(夢や希望)の達成のための活動を行う】	願いの達成のために何が必要なのか、実体験や本物に触れるなどして考えていく。	好きな食べ物を本場の土地に行って食べる。再びその場所に行けるように、体調管理や健康の増進のための学習に取り組む	夢の実現そのものがキャリア教育の求めるものではないが、願いを目標にし、どうすれば達成できるのかを考えることは、将来設計能力(目標設定)や意思決定能力(肯定的な自己評価)につながる。

の構築を目指して-」研究成果報告書。
 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所(2011)
 特別支援教育のためのキャリア教育ガイド
 ブック キャリア教育の視点による教育課程
 及び授業の改善、個別的教育支援計画に基づ
 く支援の充実のために、ジヤース教育新社。
 179-190,230-235。
 福岡県立直方特別支援学校(2017) キャリア教
 育段階表。 http://nogata-ss.fku.ed.jp/one_html3/

pub/default.aspx?c_id=88 (アクセス日:2019-
 12-20)
 上川達也・小山聖佳・名古屋恒彦・高橋縁・安久
 都靖・小山芳克・岩崎正紀・中村くみ子・清
 水茂幸・東信之・佐々木全(2019) 知的障害
 特別支援学校におけるキャリア教育の実際
 (2) - 「遊びの指導」「生活単元学習」「作
 業学習」の授業実践を通じて-、岩手大学大
 学院教育学研究科研究年報,3,249-258.

- 菊地一文(2016) 肢体不自由のある児童生徒のキャリア発達支援－共生社会の形成に向けたキャリア教育推進の意義を踏まえて－. 肢体不自由教育, 225, 4-9.
- 名古屋恒彦(2013) 知的障害教育発, キャリア教育. 東洋館出版社, 30-33,37-43.
- 乗金大輔(2016) 生活を豊かにするキャリア教育を目指して～中学部Aさんの取組から～. 肢体不自由教育実践 授業力向上シリーズ No.4－「アクティブ・ラーニング」の視点を生かした授業づくりを目指して－, ジアース教育新社,96-99.
- 越智文香・越智彩帆・榎木暢子・荻田知則・加藤公史(2018) キャリア教育に関する肢体不自由特別支援学校教員の意識調査－子どもの「夢や願い」と授業実践との関連－. *Journal of Inclusive Education* 4, 74-86.
- 岡山県特別支援学校長会(2013)：岡山県特別支援教育キャリア教育の発達段階表. http://www.pref.okayama.jp/uploaded/life/358822_pdf1.pdf (アクセス日：2019-12-20)
- 佐々木高広(2014) キャリア教育を意識した小学部段階での取り組みについて－人とかかわる力を育てる－. 肢体不自由教育実践 授業力向上シリーズ No.2－解説 目標設定と学習評価－. ジアース教育新社, 36-40.
- 下山直人(2013) 肢体不自由教育におけるキャリア教育. 飯野順子 編著, 障害の重い子どもの授業づくり Part 5 キャリア発達をうながす授業づくり. ジアース教育新社, 8-25.
- 坪谷有也・清水茂幸・名古屋恒彦・佐藤信・安久都靖・小山芳克・岩崎正紀(2018) 知的障害特別支援学校におけるキャリア教育の実際－附属特別支援学校の学部主事へのインタビュー調査を通して－. 岩手大学大学院教育学研究科研究年報,2,163-169.
- 米田容子(2016) キャリア発達を育む授業づくり. 肢体不自由教育, 225, 28-33.
- 吉田光伸・矢下将徳・菅野孝幸(2013) 自立と社会参加をめざした授業づくり－新キャリア教育の流れ表を活用して：東京都立北特別支援学校－. 飯野順子 編著, 障害の重い子どもの授業づくり Part 5 キャリア発達をうながす授業づくり, ジアース教育新社, 66-78.
- 渡部英治(2012) 特別支援学校(肢体不自由)におけるキャリア教育の在り方に関する研究－教育課程の改善と児童生徒の「夢や希望」を大切に授業づくり－. 財団法人みずほ教育福祉財団 特別支援教育研究助成事業 特別支援教育研究論文.